

社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟

平成23年度第一回通常総会議事録

日 時 平成23年6月17日（金）18時00分～19時15分
場 所 東京海員会館 会議室
東京都中央区晴海3-7-1

1. 定 足 数 の 確 認

出席会員21名、委任状31名、合計52名。従ってヨットクラブを代表する正会員59名、学識経験者である正会員15名の合計74名の2分の1を超えて第28条（総会成立）の定足数に達しており、本総会の成立を確認しました。

2. 開 会 の 挨 拶 石原 伸晃 会長の代理で岩崎 純 秘書

岩崎 純 秘書 挨 拶

石原会長は現在、健全野党の幹事長として公務多忙の為出席出来ないのにお許しを頂き、私に下記の事を伝えて欲しいとお言葉です。

「全国のクラブの代表者、指導者の皆さん、お忙しいところ多数お集まり頂き有難うございます。日頃から子供たちの指導にご尽力頂き感謝申し上げますとともに敬意を表します。今年には東日本大震災もあり、日本が大変な時ですが、子供達の元気な姿をみられるように皆で努力しましょう。私も努力します。」

代理の私も本日途中退席させて頂きたく、議事の進行は佐藤会長代行にお願いいたしますので活発なご討議をお願いします。

3. 来 賓 の 祝 辞

(1) (財) B&G 財団広渡専務理事の代理で海洋センター支援部 仲田 有 次長
広渡専務理事が出張と重なり、祝辞のご挨拶を預かりましたので代読します。

「3月11日の東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、亡くなられた皆様、ご遺族の皆様に衷心よりお悔やみを申し上げます。

(社) 日本ジュニアヨットクラブ連盟様は永きにわたりヨットを通じての青少年の健全育成やヨット競技の普及を目的として様々な活動を行われ、我が国の青少年のヨット活動に対し多大なる貢献をされております。貴連盟の「国際交流 日本ジュニアヨットクラブ競技会」をはじめとする各種大会には全国の青少年が日頃の練習の成果を発揮できる場として、毎回数多くの方が参加されております。

B&G 財団では「スポーツ・健康・人づくり」をスローガンに全国480ヶ所の「海洋センター」と約280ヶ所の「海洋クラブ」でヨットやカヌーなど海洋性レクリエーションや自然体験活動を通じた青少年の健全育成、各種運動プログラムによる幼児から高齢者までの健康づくりの事業を展開しています。

昨年は貴連盟にもご協力を頂き「B&G OP 級ヨット大会」を西日本は大分県別府市、東日本は愛知県蒲郡市で開催総勢207名が参加、初心者から世界大会を目指す上級者

まで、父兄を交えた交流会など好評な大会となっており、今年も東日本大会は7/16-17、西日本大会は7/17-18に開催されるので引き続きご協力をお願いします。

昨年3月24日2“日本の水の事故をゼロにする”目標で日本セーリング連盟、日本財団等7団体が発起人で「ウォーターセーフティ ニッポン」が設立されました。

B&G 財団は今後とも、皆様方との連携を強化し海洋性レクリエーションを通じた青少年の健全育成、住みよい地域社会を実現するため最大限の努力を傾注して参りますので宜しくお願いします。

(2) (財)日本セーリング連盟 前田彰一専務理事

明日評議員会で平成22年度事業報告、決算、補正予算を審議いただくが、21年度、22年度の決算は順調でしたが、23年度については、東日本大震災支援もあるので厳しいと思われ、補正予算が必要と考えている。

義捐金募金にご協力有難うございました。約2,000万円集まり、既に100万円渡したが、明日の評議員会に東北地方の方も出席されるので、200万円を手元に残し、1,700万円を渡す予定。

チャリティーキャンペーンも展開し、被災県のセーラーはJSAF登録を無料とし、とにかくヨットの灯を消さないように支援したい。

JSAFは平成24年4月1日に公益財団法人として再発足すべく準備を進めている。

4. 議長選出

定款第26条により会長が議長となる公務により欠席の為、定款第14条の2により、佐藤精知夫副会長が議長に選出されました。

5. 議事録署名人選出

定款第30条による議事録署名人選出は議長一任の議決により、以下の2名が議長より推薦され全会一致で選出されました。

大平 邦夫 氏 (いわきジュニアヨットクラブ代表)

辻 雅之 氏 (中央区ヨット連盟ジュニアヨットクラブ代表代理)

6. 議案審議

(1) 第一号議案 平成22年度事業報告書(案)承認の件

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成22年度事業報告書(案)の説明を行いました。

5月3日～5日のゴールデンウィークには、江の島ヨットハーバーにおいて「第30回日本少年少女オープンヨット大会」を全国大会として開催しました。又、6月には新しい大会として、ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会2010を鳥取県米子市の中海で開催しました。国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010のクラブ対抗レース優勝クラブへの特別賞として、クラブの選手3名の海外ヨット研修派遣費用援助を実施し、本年3月末に優勝クラブ江の島ヨットクラブジュニアの選手3名がニュージーランドのオークランドに行き、子供達は現地でホームステイしながらセーリング練習などを経験しま

した。国際交流競技会の参加料と一緒に集めていた選手登録料を今年度から廃止して、年度初めに提出していただくクラブのジュニアセーラー名簿の人数に応じたクラブ負担金制度については、理解が得られていない様子で今後の情宣活動が必要と感じています。

本年2月19日の平成22年度第二回通常総会後に、初めて「意見交換会」を実施し、各クラブの連盟に対する意見を聞き今後の運営に役立てる事となりました。

2月22日にはニュージーランドのクライストチャーチ市で大地震が発生し、国際交流競技会に参加した選手のブリトニー家の自宅が倒壊する被害も出たことから、募金、義集金を集め（¥250,000）石原会長のお見舞い状と一緒に前述の3月末のニュージーランドヨット研修を引率した小野澤理事より手渡ししました。

3月11日には東日本大地震が発生し、当連盟登録の宮古ジュニアヨットクラブ、松島・名取ジュニアヨットクラブ、いわきジュニアヨットクラブは壊滅的打撃を受けて、艇庫、艇等何もなくなりました。人命には被害が無かった事がせめてもの幸いでした。

JSAFの活動に協力するとともに、当連盟としての支援活動や復興支援を進めています。

正会員（登録クラブの代表者）の減少、休会クラブの増加等会費収入の減少傾向が続いています。又賛助会員も減少しているので連盟活動のあり方や収支についてしっかりとした検討が必要になっています。

ユースセーリングも年二回発行予定で3月に二回目の発行を予定しておりましたが震災の影響とその対処で時間がなくなり発行できませんでした。次回は8月に予定しております。例年3月のポートショーの出展は、有料化になったこと、所期の目的は達成された事で今回から出展を取りやめました。

説明終了後、議長より第一号議案の承認を求めたところ、全会一致で承認可決されました。

（2）第二号議案 平成22年度財務諸表(案)承認の件 （監査報告）

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成22年度財務諸表（案）について説明を行った。貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記、財産目録、正味財産増減計算書総括表、収支計算書、一般会計、特別会計Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、収支計算書総括表、収支計算書に対する注記のそれぞれにつき説明しました。

一般会計の収入は、賛助会員の減少、正会員（登録クラブに代表者）数の減少、休会等により減少傾向に歯止めができません。より一層の経費節減を行います。財産目録に未収会費の明細の記載をしましたが、これは3月末現在であることから、その後の入金確認状況の説明を行いました。ユースセーリングや大会プログラムへの広告掲載企業や、賛助会員を増やす事などの検討が必要となります。

ここで監事による平成22年度財務諸表（案）並びに当連盟理事の職務執行状況等について石崎監事より下記の通り監査報告を行いました。

「大房監事と私（石崎）が平成23年6月2日に監査を行いました。関係帳簿及び書類を監査した結果、公益法人会計基準に沿い、いずれも公正妥当なもの認められました。又

理事会にも出席しておりますが理事等役員の業務執行についても特別問題となる事は御座いませんでしたので併せて報告いたします。」（監査報告書添付）

その後、議長より第二号議案の承認を求めたところ、全会一致で承認可決されました。

議長は、以上により平成23年度第一回通常総会の議案の審議は全て終了したので閉会を宣しました。

7. 報告事項

(1) 第31回日本少年少女オープンヨット大会開催中止の件

伊藤専務理事より説明しました。

3月11日の東日本大震災の影響の甚大さ、余震が続いていること、その後の原発放射能漏れ問題の心配等から5月3日～5日に江の島で予定していた第31回日本少年少女オープン大会の開催をどうするか3月の理事会で議論して中止を決定し、後援を頂いている文部科学省、国土交通省、JSAFへも中止の報告を行い、正会員（登録クラブ代表者）への連絡を行いました。

その後、この大会で予定していた特別賞である関東水域OP連絡協議会主催のタイクリニックへの派遣研修については国際交流2011の特別賞としてスライドすることに致しました。

(2) ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会2011（中海・宍道湖ラムサール条約記念全国大会）の件

内藤理事より説明しました。

島根県松江市本庄町の本庄小学校隣接の人工の砂浜と公園（水辺の楽校）を利用しての大会でしたが、3月の東日本大震災の影響と、開催地の地理的關係や、昨年始まったばかりの第2回大会で認知度が低く、参加クラブが少なかったです。地元の県知事や市長は継続開催を希望しておりますので何とかこの大会を育てて生きたいと思えます。

熊川委員より補足説明がありました。

参加したクローバーリーフ・セーリングクラブの指導者と前指導者がオープン参加で子供たちと一緒にレースを楽しみました。選手は指導者に負けないよう楽しく真剣にレースをしたことを報告いたします。今後もこのように参加できる大会もあっても良いかも知れません。

(3) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2011（蒲郡大会）の件

小野常務理事より説明しました。

6月4日愛知県ヨット連盟と実行委員会を開催し、受け入れ状況の確認を行いました。基本的に順調に準備は進んでいる。当日は蒲郡市、愛知県庁への挨拶も終了しました。開会式と閉会式は海陽ヨットハーバー、国際交流会はラグナシアで行う事で決定しました。

ニュージーランドと韓国の二カ国は大会に参加を表明したがオーストラリアは一旦参加を連絡して来ていましたが、辞退してきました。新たに中国、タイに声をかけています。

「東日本大震災被災ジュニアヨットクラブ復興支援レガッタ」として義援金、ヨット関連援助物資を集める準備をしています。さらに、被災ジュニアクラブが本競技会に参加する援助を行うことを決めました。今まで競技会特別協賛企業であったアビームコンサルティングが下りたので連盟としての自己負担の増加が懸念されています。

(4) その他

2012年国際交流競技会の開催地代替候補地の件
伊藤専務理事より説明しました。

来年の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2012を宮城県名取市（閑上ヨットハーバー）で開催予定をしており、松島・名取ジュニアヨットクラブも宮城県連も受け入れ準備をしていました。

今回の東日本大震災により、閑上ヨットハーバーは壊滅して使用できず、復旧には相当な時間がかかります。新たなる候補地を各クラブ代表者の皆さんと検討して行きたいと思います。候補に名乗りを上げて頂いたクラブや団体と会場、予算の裏付け等も含めて打ち合わせして決定したいと思います。開催希望がない場合には東京都ヨット連盟に依頼して再度若洲ヨット訓練所での開催も検討の一つと考えております。

8. 閉会の挨拶

司会進行の熊川事務局長代行より総会での報告事項の終了が案内されました。
最後に、佐藤精知夫副会長から閉会の挨拶があり、散会しました。

佐藤副会長 挨拶

皆様のご協力で無事通常総会が終了出来ましたことお礼申し上げます。

今回は被災した「いわきジュニアヨットクラブ」からも参加して頂き、いろいろな状況を聞く事も出来ました。又、これから続いて懇親会や明日の意見交換会も準備しております。震災もあり不景気が続くでしょうが元気を出して頑張りましょう。

クリーンエコセーリング大会は始まったばかりなので我慢して、参加の子供を増やして続けて行きましょう。

皆さんと一緒に連盟の活動を考えていきたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。

(19時15分に終了する。)

上記の決議を明確にするため、議長及び議事録署名人は記名、押印する。

平成23年6月17日

議長

東京都杉並区本天沼3-23-2

佐藤 精知夫 (印)

議事録署名人

福島県いわき市小名浜大原西細野地103-7

大平 邦夫 (印)

(いわきジュニアヨットクラブ代表)

議事録署名人

神奈川県横浜市鶴見区上の宮2-24-9

辻 雅之 (印)

(中央区ヨット連盟ジュニアヨットクラブ代表代理)